

災害特集～今後に生かすために～

秋田県民の皆様、新年明けましておめでとうございます。
小野一彦でございます。

昨年は由利本荘市においても、広い範囲で破壊力の強い過去に経験のない大雨災害が発生しました。

昨年の災害時に市内のある町内では、住民の方が一軒一軒回られて「危ないから逃げて!」と垂直避難を呼びかけられ、結果、生命身体の被害は免れたとお聞きしました。

この災害、住宅再建や今年の作付けをどうするかなど今なお深刻な影響が続いています。

官民、様々なお立場の県民が力を合わせて乗り越えなければならぬと思います。

今年は巳年です。巳年は「復活と再生の年」です。巳年の念頭に当たり、一人一人が主人公となり由利本荘市、秋田県を日本で最も災害に強いまちとするための話し合いの材料としてこの活動報告をお届けいたします。

災害関連、県政に関するご相談をお受けしております。お気軽に小野一彦までご連絡ください。

小野一彦事務所 由利本荘市上大野85-1 携帯090-4476-1678

今回の災害の特徴と被災箇所数

過去に経験したことのない豪雨災害により、農地や水路等が破壊され、営農継続が大きな課題となっている。発災直後から水田に花水を通す必要があり、いかに早く水を通すかが課題となった。短時間強雨が線状降水帯のように降り、溪流、沢、中小河川の合流等により、命に危険が及ぶほどの住宅被害等が発生した。国道、県道、市道が多数通行止めとなったことにより、市民生活に様々な支障が発生し、今も継続している。一日降水量では令和5年の秋田市188.5ミリを上回る189.5ミリ(東由利)の降水量となった。

▼7月24日(水)

- 日本海から西目・由利・東由利などの真東に、短時間強雨が中山間地域に降り注ぎ、甚大な被害が発生した。

▼7月25日(木)

- 鳥海山をはさんだエリアで、こちらも西から東へ激しい雨が降り大きな被害を与え、子吉川の増水と各支川が合流し被害がさらに拡大した。

7月25日(木)撮影



東由利地区/市道坪倉線



東由利地区/舟打場水田・水路

▼被害状況等について

令和6年7月31日8時30分時点

被害区分	被害規模
建物被害	住家 311 件 非住家 25 件
農林水産関係の被害	4,773 箇所 被害額 約 186 億円
道路被害	348 箇所 被害額 約 189 億円

7月26日(金)撮影



西目地区/西目川と水田

7月27日(土)撮影



由利地区/久保田地区 市道

●7月24日(水) 被災直後の状況と対応

- 17時頃、本荘の事務所から東由利の自宅に向かう。途中、市道袖山線を通り大吹川の状況を確認するため、東由利地区舟打場に入る。
- 19時頃、集落右の山側から激しい泥水が道路に流れ落ち危険を感じたため、国道107号に戻る。
- 途中土砂が道路片側に崩れるなど、交通に支障が生じはじめているところがあったため、市東由利総合支所に寄り、情報共有。
- 支所には各地区から住民や消防団の方々が、「道路に土砂が崩れてきて通行できない」等の情報提供に来ていた。
- 中には「一人暮らしの高齢者の方が心配だが、松沢川が増水して橋を渡れず、電話しても出ない。」などの情報があり、支所でも知り合い等から連絡し安否を確認していた。
- 【県民の声1】西目地区湯保の方から、18時頃の状況として、「西目川の堤防が崩れ田んぼが海の様だ。経験したことのない災害だ。」との危機的な声。

7月25日(木)撮影



●7月25日(木) 早朝から被災状況の確認活動

- 松沢川と石沢川、法内川と石沢川の合流地点が溢れているを確認。
- 石沢方面に向かおうとするが、本荘地区山内で国道107号線通行止め。
- 【県民の声2】東由利地区寺田の方から「床上床下浸水の方々が大変だ。一人暮らしの女性は何をしたらいいか混乱している。」と電話。現地での支援活動や廃棄物運搬や消毒、居住や建物復旧への支援など「被災した人に対するすべての支援情報の一覧を提示すべきである。これにより、本人はもちろん、近隣共助の力もより発揮できるようになる。」とのこと意見をいただいた。
 - 市東由利総合支所に対応を要請。
 - 県由利地域振興局(以下「県振興局」)に、消毒等の対応情報の提供を依頼し、ご本人に伝える。
- 湯里から連絡があり現地へ。温泉を送る管が破損したため営業が出来ないとのこと。→副市長へ情報提供し、対応を依頼。
- 東由利地区舟打場の方から現場確認の要請。土砂が道を塞いでおり、道路が陥没している箇所を多数確認。現場へ到着すると住民の方がU字溝や道路に流れ込んだ土砂の排除に追われていた。
- 【県民の声3】東由利地区田代の方から現場確認の要請。住宅裏の山崩れが発生し、住民の方は避難している。早急な対応を求める。
 - 治山対策案件のため、県に対応を要請。
 - 翌日、住宅確保の要請があり。
 - 市総合支所長へ連絡し、市営住宅を検討してもらうことに。副市長等にも依頼。→対応。

●7月26日(金) 被害状況の確認活動

- 【県民の声4】東由利地区山崎の若い農業者の方から「大雨で農道が崩落。機械が入っていきず、作付けができなくなりそう。」とのメールを受信。
→すぐに現地へ向かう。国道107号から川べりに進む農道の崩落を確認。このままだと機械が入れない箇所もある。加えて水田への土砂流入、牧草ロールの多数流出など、被害状況を確認。
→県振興局長を訪問。他地域も含め、現状確認と対策(応急対策、災害復旧対策、営農支援等)を協議してもらうことにした。
- 【県民の声5】東由利地区板戸住民から連絡があり、「国道107号、横手市大沢で土砂流入のため通行止め。東由利地区館合久保で土砂崩れのため通行止め。板戸が孤立状態となり、買い物へも行けない。大沢の方は、土砂撤去したようだから、通行止めを解除して欲しい。」との要請。
→県平鹿地域振興局長に連絡。26日午前中に土嚢を設置し、安全を確認した上で片側交互通行できるようにしたいとのこと。同日17時に、片側交互通行開始。
- 東由利地区蔵及び寺田の床上床下浸水家屋の方から、災害廃棄物対応等について聞き取り。
→市総合支所に情報共有、対応を要請。
- 西目地区、西目川堤防決壊、水田に大規模土砂流入、擁壁片コンクリート等が広範囲に広がる場所を確認。
→後日、県農林部、建設部両部に現地確認を要請し、農家の方々から状況説明と要望を伝えることに。



●7月27日(土) 被害状況の確認活動

- 【県民の声6】由利地区久保田、災害箇所の確認。災害廃棄物の分別方法について、相談を受ける。
→市総合支所へ対応を要請。支所にて対応。

滝沢堰に水を通す取り組み①調査

- 【県民の声7】由利地区森子の農家の方から、「滝沢堰が土砂で埋まって「砂地の道路」になってしまった。花水を通せず、営農ができなくなる。」「埋設した水路を応急的に掘り、水田に花水を供給し、米を結実させないと収入につなげることができない。本格的な災害復旧対策の前に、応急でこの1~2週間に花水を入れるよう対策を講じてほしい。」と強く要望がなされた。

※花水とは、稲が開花するために必要な灌漑(かんがい)水のことです。滝沢堰は小坂戸から取水し受益面積650haの水田に水を供給する基幹用水路である。

- 県地域振興局長に、午後に現場を確認し対応策の指導願うと要請。
- 午後、県地域振興局農村整備課長が滝沢堰を地元農家の方と現地確認。花水を通すためには、国の災害復旧事業の応急工事で対応できる。国の災害査定の前でもできる。仮に水路内を掘り起こせなくとも、他からポンプで花水を必要とする水田に用水を供給できる。それも国の災害復旧事業で対象となる。
- そのためには、事業主体となる由利本荘市が国の災害復旧事業、応急工事を申請するという「方針の決定」が必要。
- 市由利総合支所長を訪問し、協議。広範囲な受益面積であり、花水を通すため査定前に実施できる国の災害復旧事業・応急工事を活用するよう本庁に申し入れすることに。
- その結果P5を参照

- 【県民の声8】由利高原鉄道より、黒沢踏切の手前ウイング擁壁崩壊状況を聞き現地確認。
→9月議会で補正予算。
第三セクター鉄道災害復旧支援事業
- 【県民の声9】矢島地区新荘の方より、泥土が自宅まわりに流れ、放置しないで欲しいと要望を受ける。
→市へ要請。



秋田県資料
令和6年度9月
補正予算(案)



●7月28日(日) 被害状況の確認活動

- 【県民の声10】JA秋田しんせい本部にて被災状況を教えて頂き、要望を受けた。
→農地、農業用施設、施設・機械の修理更新支援、収入減少農家への支援、共同利用施設の復旧支援がないと農業の継続ができなくなるため、離農する農家が出ないような仕組みを国、県、市町村、JA、土地改良区等の関係機関が力を合わせる必要がある。
→県地域振興局へ情報共有し、体制協議の要請を行った。
→自民党衆議院議員に電話により要請した。
- 【県民の声11】由利地区蒲田の方から、「川の中洲に流れがたまり越水し、低い方の家屋に流れ込んだ。洲ざらい、伐木が必要だ。」
- 【県民の声12】由利地区堰口の方から、「家屋裏山が崩れ、土砂が住宅に流出。窓ガラスが割れたため集会所に避難された方がいる。町内に土砂が流れてきた。」
- 【県民の声13】由利地区屋敷の方から、「土砂が流れ込み一時孤立したが、2社の建設会社が頑張ってくれて復旧したが、不安だ。」
- 【県民の声14】由利地区中畑の方から、「8箇所崩れた箇所あり、住居裏が崩れブルーシートで応急対応している。市や県も来てくれたが、これからの雨が心配だ。」

●7月29日(月) 被害状況の確認活動

- 【県民の声15】東由利地区の農家から、水田に水をいれないと年に一度の稲作収入が得られないので、壊れた用水路を自分達で応急的に直したいと支所に相談。
→市では事前着工との関係で要検討との回答。
→県へ、国の災害復旧事業の事前着工について確認。要件を満たせば応急対応ができると回答を得て、相談者に伝えた。
- 【県民の声16】矢島地区の方から、「牧草の2番草を刈り取り販売する時期が近づいているこの時期に、牧草地に至る市道が被災。安全確保しながら自力でも通りたい。迂回路といっても国道に出る必要がある。大型機械を運ぶとすれば夜中に行かないといけない。たくさんの畜産農家が飼料を買えない事態が広がる恐れがある。」とのご相談を受ける。
→矢島総合支所に来ていただき、対応を協議してもらった。
→別のルートにより対応。
- 【県民の声17】鳥海地区上直根の方から、笹子に通じる県道70号がこの雨で通行止め。通勤に使用している人もおり、早期復旧を望むとの要望。
→11月4日時点、県による年度内発注予定を確認。



県より提供

●7月30日(火) 被害状況の確認活動

- 【**県民の声18**】館合新田水利組合の方々から、林道メタダレ線、水路、溜池等の被災状況の確認と支援要請を受けた。
→当日、水利組合の方々とともに現地確認。
→8月5日、県農村整備課と森づくり推進課とで改めて専門的な現地調査を行った。
- 【**県民の声19**】東由利地区須郷にて、用水路に水を引く堰根が損壊。このままだと農業継続が困難。水路の復旧についてどうすればいいか、ご相談を受ける。
→市総合支所に相談対応を要請。
→市、現地で相談者へ対応。
- 【**県民の声20**】東由利地区杉森にて、杉森川護岸損壊、水田に土石流入、農機具が格納された倉庫に土砂流入。罹災証明等の手続きについて情報提供を求められる。(県民の声2と同じ、災害支援情報の一覧があれば今後こうした声に対応できるはず) →市総合支所や県に対応を要請。
- 【**県民の声21**】東由利地区杉森住民より、「沼から高屋へ至る市道について通行止めになっている。その先に耕作地や畜産農家の堆肥小屋もある。安全確保し交互通行できないか。」と相談を受ける。→市に対応を要請。



●7月31日(水) 被害状況の確認活動

- 【**県民の声22**】東由利地区沼で営農しているの方々から、「杉森川が水田に溢れて土砂流入、水田だった場所に川ができていた。まず川を優先的に復旧させていただかないと、台風の季節、雪解けの季節が来れば水害を誘発しかねない。」
- 【**県民の声23**】復旧を計画的に行くと明確に情報提供をして欲しい。それがあれば安心して自分たちのできることをやる。でなければ耕作放棄地の連鎖につながりかねない。
- 【**県民の声24**】農地が地滑りし、そばを植えている田んぼが大きく崩れ、下の杉森集落への影響が懸念。
→県と市で現地を確認。
- 【**県民の声25**】本荘地区烏川の農家の方から、浸水冠水水田への対応(防除等)が不安といったお話を聞き取り。
→市や県に対応を要請。
- 【**県民の声26**】東由利地区須郷にて、来年度の春作業のためにも水路の早期復旧等、優先要望事項を聞き取り。格納庫が崩落しそう。助けてほしいとのことの要望も受ける。
→8月5日、県と再訪。対応を協議。



8月

●8月1日(木) 被害状況の確認活動

- 【**県民の声27**】東由利地区沼にて、市道金山線について、通行止めの先にある実家に行っている方がおり、乗用車では通行が困難なため、安全に通行できるよう応急工事をしてほしいと要望を受けた。応急工事を市総合支所に要請するため、通行止めの場所、その先にある土砂堆積、アスファルトの凹凸を現地確認。

→市東由利総合支所へ対応を依頼。市内で道路河川の災害が80箇所あり、業者が本当に忙しく、順番待ちの状況であるとのこと。

→災害協定を結んでいる建設業協会に応急工事に対応できる会社を増やすよう、市からの依頼を要請。

- 【**県民の声28**】東由利地区舟木の方から、家と倉庫の裏が崩れた。初動の段階でどうすればいいかわからず次の雨が心配だ。
→現状を確認。
→8月5日に県農村整備課、森づくり推進課と合同現地調査。
→ご本人の不安、心配に対して県で技術的アドバイスを行う。専門業者へご本人独自で依頼。
- 【**県民の声29**】東由利地区舟木の方から、JA資材費支払いを収入保険の支払まで延長措置要望。
→JA本店を訪問。ご要望に対応するとの回答。
- 【**県民の声30**】JA組合長から、カントリーエレベーター、野菜種苗センターの復旧について補助申請をする予定だが、来年度の作業に間に合うよう運用を望むと要望を受ける。
→自民党衆参国会议員及び県に対応を要請。
- 【**県民の声31**】東由利地区黒沢の方から、「山の沢から土砂が流れて小さな溜池を越え、水路の寸断と水田の一部が崩落し、県道側溝に土砂が堆積したが、1mの深さで側溝の蓋が厚いコンクリートのため、自分たちで浚渫し花水を通すことができない。」と住民から相談。
→市総合支所に対応を要請。
対応済み。



●8月2日(金) 被災箇所現場で異なるプロフェッショナルたちが県民(農家)の不安やニーズに答える活動

- 西目地区潟保にて現地確認。地元農家、市西目総合支所産業建設課長・担当、県振興局建設部環境保全課長、農村整備課長、農業振興部課長が、合同で説明、聞き取り。堤防が倒れ、川の中に大きな破片が横たわる。水田には石や砂が流れ込み川原みたいな状況。県民による被災当時の状況説明。
→環境保全課長=国の災害復旧対策事業で対応。査定まで待てないので、応急工事を行う。
→農村整備課長=国の災害復旧対策事業で対応。事業主体は由利本荘市。応急工事に対応可能。
→由利本荘市では7日に議会召集し予算を議会にお願いする。
→共済も含め、市、県、土地改良区、農協連携して農家を支援していく。
- 【**県民の声32**】今は営農上重要な時期であり、災害復旧の対策が今どうなっているのか、今後どう進めていくか、我々に説明する機会を作って欲しい。
→市西目総合支所で実施。
- 【**県民の声33**】市から通知があったが、花水を通す大事な時期で、重機等のリース代も補助になるか。→なります。
- 【**県民の声34**】水田に入り込んだ土砂や石の除去は自分ではできない。どうすべきかわからない。
→一定の条件のもと災害復旧事業で行うことができます。



堤防決壊した西目川



●8月3日(土) 被害状況の確認活動

▼東由利地区ニタ子の方々からの声

- 【**県民の声35**】「鮎川の流れがぶつかる集落の東側道路に護岸をつけて欲しいと継続要望してきたが、今回の大雨で道路が崩れた。次の雨で川が増水し、さらに道路が崩れ集落内に流れ込むのが怖い。」
- 【**県民の声36**】「鮎川護岸と自宅下斜面の間に水が流れ込み開いた。どんどん開きが大きくなっていて怖い。」
- 【**県民の声37**】「自宅前の斜面の上にある市道の法面が崩れ、土砂が道を越え自宅前まで流れ込んできた。次の雨が怖い。」
- 【**県民の声38**】市道から農道を経て水田があるが、市道入口が陥没したり農道も流され、大石が散乱している。水田にどう花水をかけるか。育苗ハウスもあり、来年の営農が心配。

以上の声を受け、以下の対応を実施。

- その日のうちに県振興局に現地確認を要請。午後から農村整備課長が現地確認し、河川、農地、水路について県振興局内で局長のもと共有し対応。由利本荘市にも共有。
- その後、11月4日に小野が現地を再訪し、応急措置等を確認。
- 市道について市は災害復旧事業で対応方針。その間、状況を注視。住民の方は自宅への土砂流入を心配している。
- 【**県民の声39**】東由利地区島の方から「15haに水を通す水路4箇所が法面崩壊して使えない。花水をどうするか。」
- 市へ即届けてくださいとアドバイス。市の事業で対応。



●8月5日(月) 被害状況の確認活動

▼東由利地区杉森 現地確認

- 【**県民の声40**】杉森集落をつなぐ市道が通行止めになり、日常生活に支障を来している。応急措置で片側交互通行できるようにしてほしい。
- 市で災害箇所が極めて多く、危険度や迂回路の有無などで順番に対応していきたい。(市総合支所)
- 【**県民の声41**】自宅の裏山が崩れた。見てほしい。
- その日の内に、県振興局森づくり推進課が危険度を確認。

▼東由利地区沼 現地確認

- 【**県民の声42**】市道金山線が沼地区入り口付近で片側崩落。
- 【**県民の声43**】住宅に隣接した法面の護岸の根が掘れて法面に穴が開いた。住宅の座敷が傾いて不安だ。
- 県振興局建設部に伝えます(農村整備課長)

▼東由利地区舟木 現地確認

- 【**県民の声44**】裏山の沢から水と土砂が大量に落ちてきて、下の住宅に流れ込んだ。30年前、今回の隣の沢に堰堤を造った経緯がある。対策を講じて欲しい。
- 県振興局内でこの箇所は確認しており、対応を検討する。

▼東由利地区大琴 現地確認

- 【**県民の声45**】頭首工脇が崩壊し水が流れ出し水路に水が回らない。
- 【**県民の声46**】揚水機にまで水が上がり土砂で埋まった。頭首工と水路が来年までに復旧し、この揚水機を直し、稼働させなければ来年度の営農ができない。どうすべきか。
- 45、46国の農業用施設災害復旧事業を検討・申請。
- 【**県民の声47**】自宅裏の法面が崩れ下の水田に土砂が落ちた。
- 確認の結果、表層の流れであり県で対応する。田んぼについては、市の災害復旧対象箇所として確認。
- 12月13日、現地でその後の対応等、相談会を実施。

▼東由利地区館合 現地確認

- 【**県民の声48**】川から来る水で土砂が堆積した。対応して欲しい。
- 県振興局内で共有し、対応する。
- 【**県民の声49**】「水田の中に抜根や流木、土砂が流れ込んだが人力ではどうしようにもない。この処理はどうすべきか。」
- 土砂、瓦礫などの処理費も国補助の対象となり、市の被災箇所リストに掲載されているかどうか確認。
- 【**県民の声50**】折橋頭首工崩落や河川護岸崩落、水田土砂流入などの対策を講じてほしい。
- 河川は県管理の松沢川。護岸については、頭首工についた上流10m・下流15mは頭首工を設置した水利組合等が負担するルールがあり、それに基づき対応。
- 【**県民の声51**】折橋農道が河川に崩落した。営農に支障が出ている。
- 県と協議し、市で対応。

▼東由利地区館合 現地確認

- 【**県民の声52**】被災箇所、林道メタダレ線・陥没水路崩落等の対策を求める。
- 市の災害復旧等で対応。

▼東由利地区田代 現地確認

- 【**県民の声53**】住宅裏山崩れ、避難生活。早急な対応を望む。
- 治山事業で対応。
- 【**県民の声54**】隣接する箇所に堰堤があり、土砂埋設による住宅への流入の心配あり。
- 溪流調査により、対策を検討。

▼東由利地区石高 現地確認

- 【**県民の声55**】住宅裏法面にひびが入り、生活に不安。対策を望む。
- 後日、県が専門調査を実施。

▼東由利地区須郷 現地確認

- 【**県民の声56**】格納庫敷地にひび。農道水田水路崩落。
- 地すべり地帯であり、県と市とで安全対策を進める。

▼東由利地区船打場 現地確認

- 【**県民の声57**】市道袖山線が、山崩れで通行できない。対応を望む。以後、多くの市民から要望あり。
- 市に対応を要望。
- 国の災害復旧を申請し、安全を確認しながら、片側交通を進める。
- 11月中旬に通行可能となった。
- 【**県民の声58**】市道坪倉線、民家の裏の箇所崩落等への対策を望む。
- 民家裏については、県振興局森づくり推進課で危険度を調査の上対応。市道や農地などについては、災害復旧で対応。
- 【**県民の声59**】雨が降れば、土砂が流れ落ちる箇所あり。通称「みなづかみ」と呼んでいる。そこが不安なので何らかの調査が望まれる。



●8月10日(土) 災害ボランティア活動に参加

- ・由利地区久保田でボランティア活動。住宅の床下泥・蔵の泥出し、土嚢の袋詰め、運搬、家屋まわりの泥を掻き出す作業を行った。

- ・【**県民の声60**】ボランティア活動後、住民の方から「24日の夜から雨が酷くなり、町内の方が一軒一軒を回り避難を呼びかけてくれ、二階へ避難した。その後家の中に肩くらいまでの水が入り込んで来た。呼びかけがなかったら一階にいた家族の命に危険が及んでいたと思う。これからもここに住み続けたい。そのために、あんな恐ろしいことが起きない対策を進めて欲しい。」とご要望。

→8月25日、由利地区久保田の住民の方から意見を聴く会を実施。町内の皆様から災害当時の状況や要望をお聴きし、県に要望を伝え、一般質問の参考とさせていただいた。
＜一般質問①へ＞



- ・【**県民の声61**】由利地区久保田の方から、雨床上浸水し、家電やスマホも水没した。スマホを新しく買ったが、設定や使い方がわからず、連絡するのも大変だった。災害時にデジタル機器の使い方を被災現場で教えてくれるボランティアがいてほしい。
→社協によるニーズ調査やボランティア募集で対応可能と思う。

●8月11日(日) 被害状況の確認活動

- ・東由利地区土場沢・高屋にて住民の方から被災現場を案内していただき現地確認。
→住宅前の河川護岸破損箇所への市の対応を確認。
→被災農地について離農者発生への不安をお伺いした。他の箇所も踏まえ、離農が発生しないよう一般質問にて県の対策を質す。

●8月14日(水) 被害状況の確認活動

- ・東由利地区松沢・板戸の地下の沢、笹子皿川にて聞き取り。
→市、県に対応を確認、要請。

●8月15日(木) 被害状況の確認活動

- ・【**県民の声62**】本荘地区上野の方から、「石沢川の烏川橋欄干や堤防に残る大きな流木を除去してほしい。この前の豪雨災害で小屋、倉庫に床下浸水し、また雨が降ればまた浸水するのではないか。」との声。
→その後、県振興局建設部に対応を要請し、後日対応済み。



- ・県振興局を訪問。県管理河川、道路の被災状況等について確認、災害復旧事業の今後のスケジュールの確認など、災害対応状況の状況説明を受ける。

●8月20日(火) 被害状況の確認活動

- ・【**県民の声63**】東由利地区蔵にて、流雪溝ポンプが被害を受けた。冬に向けて対策を求む。
→市総合支所に要請。市にて対応。

●8月22日(水) 県振興局長へ要望

- ・県振興局長に「国の農地災害復旧事業費及び農業施設災害復旧事業の説明を農家の方にこれまで以上に丁寧にしてほしい。今回の災害で、「国の災害復旧事業を活用すれば営農継続できたのに、それができなくて営農を諦める方が増える。田んぼを地主に返し耕作放棄地が増える。そんな連鎖にならないよう県と市が一体となり農家に寄り添ってほしい。」と要望。

●8月23日(金) 県民からの要望対応

- ・【**県民の声64**】東由利地区館合流雪溝組合より要望。川から水を引き山際の水路をめぐらし流雪溝に繋いでいたが、堰根部分、水路部分、県道部分が壊れた。冬まで使えるようになるか心配。
→11月26日流雪溝組合の方から再度要望。市東由利総合支所・県振興局訪問。状況確認。
→流雪溝取り入れ口の内、2か所が応急処置により通水可能に。残り1箇所(国道398号)が法面崩落の危険により応急工事が困難と判明。本工事は優先発注するが、査定箇所が多く、3月末になる見込み。
→次善の策として、通水不能な60世帯分については、市においてこまめな排雪支援を行うよう副市長に要請。→了解。
→市のそうした取組みを県もサポートするように県振興局建設部長に要請。→了解。
→流雪溝組合代表はもとより、関連する自治会にこの経緯と対応をしっかりと説明するように市に要請。

●8月24日(土) 豪雨災害現場視察及び意見交換会

- ・由利地域権現沢溜池を現地視察し、国、県、市、土地改良区、JA、森林組合が一体となって取組むことを確認。

滝沢堰に水を通す取組み②結果

豪雨災害応急工事箇所確認(由利地区森子)

- ・経緯・お受けした要望はP2【**県民の声7**】を参照。
→国の農地災害復旧事業による、応急工事が決定。

応急工事による復旧状況を確認。通水を確認。



施工前(7月27日)



施工後(8月24日)

- ・【**県民の声65**】11月3日メールにより要望。9月20日の豪雨で滝沢堰が再び土砂で埋まってしまった。雪解け時の増水による二次災害の心配があり早期の対応を望むとの要望が寄せられた。
→11月12日現地確認のうえ、翌日、市本庁に対応を要請。
→市では災害査定を踏まえ、指令前着工申請をしながら、融雪時前を目標に少しでも早く工事にとりかかりたいとのこと。



●8月26日(月) 県民からの要望対応

- ・【**県民の声66**】由利地区被災農家の方から相談。「豪雨災害で農機具全て被災。稲刈り時期が近くなり、コンバイン、乾燥機をどうするか。生活設計を立てることができない。」
→県振興局農林部長へ対応を相談。県では県単支援制度を措置。あわせて農業共済により対応していただいた。

●8月28日(水) 県民からの要望対応

- ・【**県民の声67**】西目地区の若い担い手農家から、国の事業に申請したいが、農業用水路、農地等について受益者負担があり、事業参加の合意が進まない。このままだと耕作放棄地化し獣害などの影響が出る。
→受益者負担の額の根拠となる由利本荘市の要綱を送るなどアドバイス。激甚災害が指定になることを前提として具体的な判断材料をもとに、相談してみたい。
→市西目総合支所課長、県振興局農林部長にそうした話し合いが進むよう、さらに相談にのってもらおうよう要請。

●8月29日(木) 県民からの要望現地確認

- 【県民の声68】東由利地区松沢の方から、市道田の沢線について大きな山崩れがあり、この道路を通らないと、稲刈り、牧草の刈り取りに支障をきたす。応急工事による片側通行を望む。

→市へ対応を要請。



9月

●9月17日(火) 県議会一般質問 7ページへ



YouTube

●9月27日(金) 県民からの要望対応

- 鳥海地区上野宅にて、小さな砂防ダムに土砂がたまり、雨が降れば上流から土砂が水路を丁字に直撃すると相談。

→県振興局建設部へ連絡、確認。10月中旬に現地調査すること。要望者本人の連絡先を伝え、報告を要請。

→県が本人立ち合いのうえ現地を確認し、対応方針を伝える。



10月

●10月4日(金) 県河川砂防課からレクチャー

- 一般質問答弁を受け、今後の治水対策全般について説明を受ける。

●10月7日(月) JA幹部との情報交換

- 災害の影響、収穫状況について情報交換。

●10月13日(日) 豪雨災害一般質問に対する 県答弁等報告会

- 由利地区久保田の集落会館にて、自治会役員、被災された方々へ報告。あわせて、現時点でご心配なことをお聴きする。自宅前の法面崩れの現場確認。県振興局森づくり推進課へ改めて危険性確認要請。

→ご本人に県から連絡。

●10月17日(木)

- 由利地区の農家から営農継続へのご相談。(農機具、ビニールハウス水没)
→県振興局長、農林部長へご相談者への現場対応を要請。
→対応。

11月

●11月8日(金)

- 【県民の声69】東由利地区寺田の方から、流雪溝のゲート前に災害要因による土砂堆積。このままでは冬使えない。対応望む。

→県と市に対応状況確認。
市がまずはゲート前除去。



- 県振興局建設部が管内全体の河川、道路の復旧状況及び方針について報告。
- 由利地区森子からのご相談への対応状況。

●11月9日(土) 鳥海地区の市道上屋敷 清水淵線被災状況確認

- 鳥海地区の方から要請あり確認。災害復旧対応を確認。

●11月10日(日)

- 農地と河川とセットの災害復旧を要請。
- 東由利地区担い手農家より農地は災害復旧で対応するが、隣接する河川堤防は崩れたまま。対応を望む。
→県振興局に連絡。翌日来訪対応。11月14日、16日、17日も他の箇所と同様にご相談あり、県や市で対応済み。



●11月15日(金) 被災箇所への県と市のその後の 対応状況と新たなご要望聴き取り活動

- 西目地区の農地への対応、水路への対応、西目川応急工事の状況確認。なお、西目川については今回の被災箇所より下流、中島橋付近について水路等からの水合流し頻繁に水が上がる。農業被害もあり抜本的対策を望むと要請あり。
→県振興局建設部長へ要請。

●11月29日(金) 農業を応援する議員連盟役員と認定 農業者の方々と意見交換会に参加

- スマート農業の農機具が高すぎる。
- 県は大規模農家だけを応援しているのか。
- 豪雨災害で収量が落ちた。その原因と対策について。などご意見いただき、12月県議会で質疑等。今後の活動に反映。

●12月8日(日) 東由利地区 夏川原水利組合の方々からご要望

- 地滑り対策、排水路被災箇所、来年のしろかきのための用水確保への支援についてご相談あり。
→一般質問答弁で県が示した現場で県や市が合同で被災農家の相談へ対応する一環として12月13日(金)に現地で相談会実施。

令和6年9月17日
9月議会

令和6年
第2回定例会

本会議(一般質問)



スマートフォン
アプリで
視聴
再生
をクリック!

久保田川等中小河川を中心とした総合的な治水対策について



質問

令和6年7月24日に発生した豪雨災害では県内多くの箇所で甚大な被害があった。特に多くの世帯が被害を受けた、由利地区久保田町内の方々から発災時のお話や今後の要望等をお聴きした。その中で、住民の総意として中沢川を受け止める久保田川のかさ上げや拡幅などの対策を求める強い要望があった。

そこで、今回の豪雨災害における雨量や水の流れ等を徹底的に検証し、それを生かした形で「久保田川等中小河川を中心とした総合的な治水対策」を講じるべきと思いますが建設部長の考えはどうか。

県の答弁(建設部長)

7月の大雨により、由利本荘市では子吉川のほか、その支川である久保田川なども氾濫し、甚大な被害が発生したことから、中山間地域を流れる中小河川についても、被害軽減に向けた対策を加速していく必要があると改めて認識した。

このため、先月開催された子吉川圏域流域治水協議会において、「水災害対策プロジェクト」を年内に策定することとし、議論を開始したところであり、今後の流域全体の治水対策については、河川改修や河道掘削のほか、内水氾濫対策や森林整備など、様々な手法について検討を重ねていく。

久保田川については、今年度、浸水想定区域図を作成するほか、今回の大雨により家屋浸水被害は発生したことから住民の早期避難につながる河川カメラなどの設置や、降水量評価と対応方針の策定に要する予算を今議会に提案しており、今後、関係機関と連携しながら、沿川住民の安全・安心の確保に向け、地域の特性に応じた方策を検討したい。

農林水産被害の復旧と農家の営農継続に向けた支援について



質問

① 共同利用施設のカントリーエレベーターや野菜種苗センターの復旧と再稼働への支援見通しについて

現在、次年度の利用に間に合うよう国や市町村とも連携し復旧支援を行う方向と伺っているが、野菜は令和7年2月、コメは令和7年の秋までに稼働する必要があり、現場の農家からは機械の納入時期等タイムスケジュールについて心配の声が出ているが今後の見通しはどうか。

② 個々の農家や任意の水利組合等に対して営農継続・耕作放棄地化防止・事業承継をトータルでサポートするチーム設置と活動の展開について

この度の豪雨災害では、農地・農業用施設の被災箇所が4,773箇所と膨大な箇所数であり、JA秋田しんせい管内がその73%の3,522箇所を占めている。

9月議会で県は、営農継続支援のための予算を計上したが、そうした予算を生かしながら、個々の農家や水利組合等のニーズに応じて営農継続のため、サポートするチームを設置し活動を展開することについてどう考えるか。

③ 農地・農業用施設の改良復旧について

本年8月、国から「農地・農業用施設の改良復旧」と題して事例が紹介されたが、これを全県に横展開すべきと思うがいかがか。

県の答弁(農林水産部長)

① カントリーエレベーターの復旧には、国の災害復旧事業を活用することにしており、JAでは10月に予定している災害査定に向け、事業計画の策定を進め、国の承認後、直ちに工事に着手できるよう、来年の稲刈りまでには復旧する見通しと伺っている。

また、野菜種苗センターについては、現在、播種機や育苗器などの機械メーカーと修繕に向けて調整中であり、来年2月からのネギの播種・育苗作業に間に合う見込みで、県独自の農業経営等継続支援事業において、施設復旧を支援する。

② 県では、災害発生当初から国や市町村やJA等と連携し、被害状況の早期把握に努めるとともに、用水の確保に向けたポンプの設置や水路の土砂撤去など、査定前の応急対策について支援したほか、地域振興局の相談窓口において、技術指導や資金繰りの相談などに対応しているところだ。

今後は、生産の基盤である農地や水路の早期復旧を図るため、市町村や土地改良区の要請に応じ、設計書の作成準備など、国の災害査定が円滑に進むよう、技術的な支援を行っていく。併せて、生産施設の復旧や再生産に向けた取組みを支援するとともに、ため池の決壊などにより、水稻の作付けができない農地においては、大豆やソバの作付けを促すなど、個別農家の状況に応じてフォローしていくことにしている。

これまで大規模な災害に際しては、地域振興局が中心となり、市町村やJA、土地改良区等が一体となって対応しているが、今般の大雨により、被災箇所が多く広範にわたっている地域では、被災地毎の担当窓口を置いてワンストップで相談に当たるほか、関係団体等によるチームとして情報共有を図りながら、きめ細かくサポートしていく。

③ 今般の災害では、由利本荘市のため池における洪水吐の拡張を検討しており、引き続き市等とともに、改良復旧の取組みを進めてまいりたい。



PICK UP! 被害状況の確認活動

この度の災害において、小野が動いた状況活動の内、2つの活動を時系列にまとめました。内容からその結果までをご報告します。

鳥海地区 宅地湧水対策

●8月6日(火)

- 当事者のお知り合いから、小野宛に現地確認要請のメール。



自宅近くの倉庫シャッター下、小屋の床のひび、自宅と倉庫の間の畑地、自宅向こうの土地から、水が湧き出てきた。心配でどうすればよいかわからない。このまま、また大雨が来るとこの地盤が崩れていくのではないかと。

●8月7日(水)

- 市鳥海総合支所長へ、現地確認と相談内容の聞き取りを依頼。

●8月14日(水) 小野一彦、現地確認

- 小野一彦が現地で、ご本人からお話を伺う。
→その後、市鳥海総合支所を訪問し、現地確認とご本人からの聞き取りを要請。

市鳥海総合支所

20日過ぎに、ご本人と現地でお会いし、お話を直接お聞きしたい。ご自宅、畑地、倉庫、小屋の下に水脈があるのか等、専門的な調査と対策が必要と思われます。

●8月23日(金) 市による現場確認

●9月12日(木) 調査結果報告

- 市鳥海総合支所長はじめ、23日訪問調査した結果所見をお聞きしました。

市鳥海総合支所

水が湧くのは、側溝清掃では解決できないことがわかったため、県振興局農林部森づくり推進課に相談する。

- 小野からも、県振興局森づくり推進課長に現地調査について要請。現地を専門家が訪問調査しますとのこと。

●10月8日(木) 県による現場確認

- 県振興局農林部森づくり推進課長以下の方々、市総合支所長以下の方々及びご相談のあったご本人と一緒に現地で説明、調査を行う。
- 終了後、県の方々だけで専門的な実地調査を行った。



●10月23日(水)

- 県による調査の結果、山からの水が側溝の下に流入し、道路を経て宅地、川へと流れていることがわかったことから、市により側溝への通水を行う対策を講じることとした。

※その後の状況によって異なる事業等による対応をした箇所もありますことを申し添えます。

由利地区森子 3つの沢 治山対策、砂防対策

●9月6日(金)

- 森子町内の総代の方から、以下のご要望があった。



森子町内の3つの沢が氾濫し住宅を直撃した。対策を講じてほしい。

●9月9日(月) 小野一彦、現地確認

- 総代の方から当日の状況、これまでの対策について教えていただき、対策についてご要望をいただく。



●9月11日(水) 小野一彦、市による現場調査

- 森子町内の総代、県振興局農林部森づくり推進課長、職員の方、市由利総合支所の職員の方、小野一彦の合同で現地調査を実施。

- 今回の災害で沢が氾濫し、住宅を直撃した。今後同じような雨が頻発することを前提にした対策を立てるため、発災時の状況、土砂の流入痕跡、過去の堰堤、砂防ダムの箇所、調査箇所、この度の災害復旧事業にのっているかなど現地でお話をお聴きする。

- 県ではこれを受けて来週から本格的調査に入ることとなる。



●10月8日(火) 県による調査結果報告

- 県から地区の方へ、調査結果報告がされる。

●10月10日(木) 市由利総合支所へ報告及び情報交換

- 久保田川等中小河川を中心とした総合的な治水対策
- 答弁内容、予算、今後の取り組み内容について説明
- 由利地区森子の調査結果について情報交換

●10月11日(金) 小野への調査結果報告

- 調査結果と対策について、県振興局農林部森づくり推進課の方から丁寧な説明をいただく。

県民の声を踏まえた教訓化と今後の対応について

～同じ災害が明日起きた場合に如何に被害を減らすか～

災害発生前

□市民ができること

- 自宅周辺の水災害発生リスク確認、ハザードマップマップの使い方、河川カメラの見方等を学ぶ
- 水害に強い住宅化、床下換気口の封鎖、土嚢や水嚢によるトイレ逆流防止など(国土交通省「家庭で役立つ防災」)
- 避難計画策定、訓練実施(市危機管理課HP参照)
- 火災保険の水災補償特約の活用(住宅、家財)
- 農業共済任意保険の活用(農機具)

□行政、及び市民

- 秋田県土砂災害危険箇所マップによる確認。
- この度の災害で、「自宅裏が崩れた、心配だ」と支援要請のあった方々とその地区、過去に対策を講じた箇所の棚卸しと恒常的な注視



秋田県土砂災害危険箇所マップ

災害発生後

□行政

- 災害発生直後から、あらゆる支援情報の一覧化と住民への提供
- 浸水被害住宅対策、秋田県建築士会「浸水被害住宅の技術支援マニュアル」による相談(秋田県建築住宅センター等)
- 営農計画に資するための災害復旧計画の提示
- 国事業による査定前の事前着工が許可される事例を農家へ説明(しろかき、花水時期)
- 頭首工、水路復旧が令和7年春のしろかきに間に合わないため、別の手段にて用水確保必要な場合の国等支援
→国によるポンプ無料貸出制度の活用



浸水被害住宅の技術支援マニュアル(11P参照)



農林水産省災害応急用水ポンプ設備の利用